

1 組織

- (1) 東京都立府中高等学校学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 経営企画室長（事務局長） 計1名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長（事務局長）、教務主任（主任教諭）、生活指導主幹教諭、
進路指導主幹教諭、総務主幹教諭、1学年主幹教諭、
2学年主任（主任教諭）、3学年主幹教諭計11名
- (4) 協議委員の構成
本校PTA会長、本校同窓会々長、府中市立府中第五中学校長（有識者・地域）、
府中市教育委員会指導主事（有識者）、東京学芸大学教授（有識者）、
けやきフェスタ in 府中実行委員長（地域）、
サントリー武蔵野工場長（地域） 計7名

2 平成27年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（1回～3回）の開催日時、会場、出席者、内容、その他

- 第1回 開催日時 5月9日（土）午後3時45分から午後4時50分まで
会場 本校校長室
出席者 内部委員 8名 協議委員 5名
内容 委嘱状交付
評価委員選定
学事報告
26年度学校経営報告及び27年度学校経営計画について
意見交換
- 第2回 開催日時 9月18日（金）午後3時45分から午後4時50分まで
会場 本校校長室
出席者 内部委員 9名 協議委員 5名
内容 学事報告
学校評価について
夏季講習等の取組みについて
奉仕体験活動（2年・総合的な学習の時間）について
生徒募集対策について
意見交換
- 第3回 開催日時 12月4日（金）午後3時45分から午後4時50分まで
会場 本校校長室
出席者 内部委員 8名 協議委員 5名
内容 学校評価について（調査集計結果分析、考察・今後の取組）
分掌（教務部・生活指導部・進路指導部・総務部・学年）から
意見交換

- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他

- 第1回 開催日時 9月18日（土）午後3時から午後3時30分まで
会場 本校会議室
出席者 評価委員 4名
内容 評価方法の検討・評価項目の決定
- 第2回 開催日時 12月4日（金）午後3時から午後3時30分まで
会場 本校会議室
出席者 評価委員 3名
内容 評価アンケート集計結果の分析

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

(1) 学校評価の視点

「学校への満足度」「学校の取組」「学力の向上」「開かれた学校づくりの状況」「学校への理解」等の観点で実施する。

(2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

・12月 生徒（各学年全クラス）	833人	回答数	805人	97%
・12月 保護者（各学年全クラス）	833人	回答数	470人	56%
・12月 地域住民	43人	回答数	14人	33%
・12月 教職員	49人	回答数	49人	100%

(3) 主な評価項目【評価項目の精選】

・学習指導、生活指導、進路指導、特別活動、健康・安全、学校への理解などに係る項目

(4) 評価結果の概要（校長や学校全般への意見・提言内容）

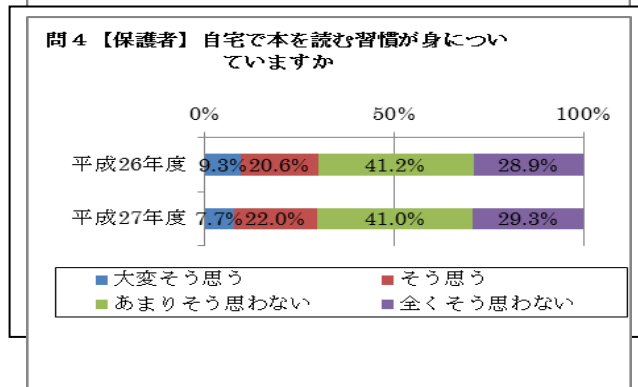
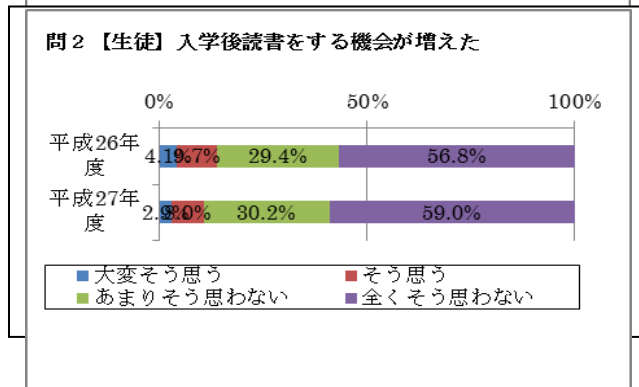
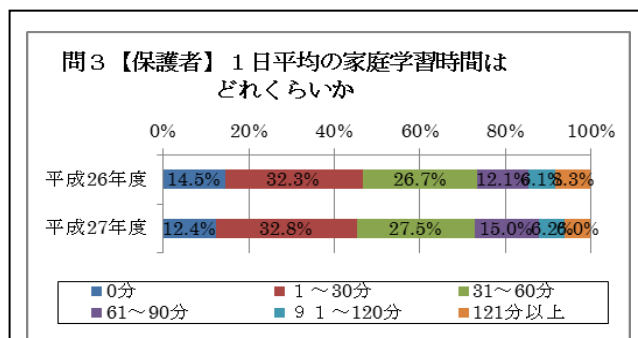
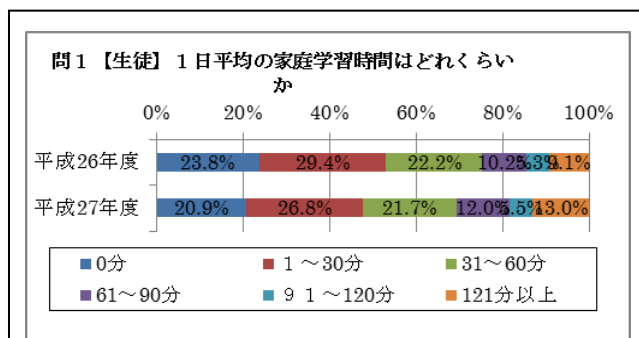
- ・家庭学習について、1時間以上の学習時間が微増しているが30分以内の生徒がまだ40%近くいるので、必ずしも十分な家庭学習時間とは言えていない。
- ・授業について、多くの教員は学力を向上させていると感じているが、生徒や保護者の評価は40%近くが満足していない。進路に直接結びつく授業への期待感が多い。
- ・進路については、年々4年制大学への進路希望者が増加しているが、40%の保護者は本校の進路指導について更なる期待がある。
- ・教員及び保護者は、部活動の有用性を評価しているが、指導体制に対して満足していない意見も30%ある。
- ・1年前と比べて本校に対する期待と希望をもつ生徒及び保護者の割合が増加している。

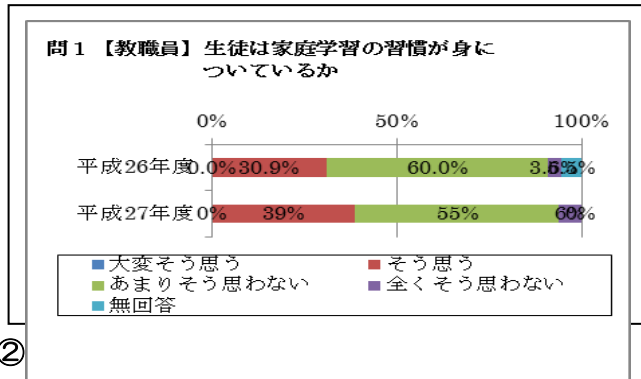
(5) 調査結果の分析と考察（校長や学校全般への意見・提言）

① 家庭学習について

集計結果では、0時間が減少し、121分が増加するなど、全体的に時間数が増加している。

学校としては、昨年同様、家庭学習の定着、学習時間の確保という点を重要課題と考え、宿題や課題、小テストの実施や定期的に生徒の学習時間実態調査などを行い、その結果をもとに面談をするなど、多方面から家庭学習時間を増加させるための取組を推進するよう働きかけている。また、「学問のすすめ」といった学習方法を記した本校独自の冊子を前年度の3学期（新入生は年度当初）に配布し、自学自習を進めやすいよう情報を提供している。問2の読書をする機会については、昨年度に比べると微減している。やはり、ゲームやスマホなどの影響も推測できる。今後とも、ビブリオバトルの実施、図書委員会などからの本に関する情報提供や各学年での小論文ガイダンスの実施など現在行っている言語能力向上への取組を進め、継続してさらに進めていく必要があると考えている。

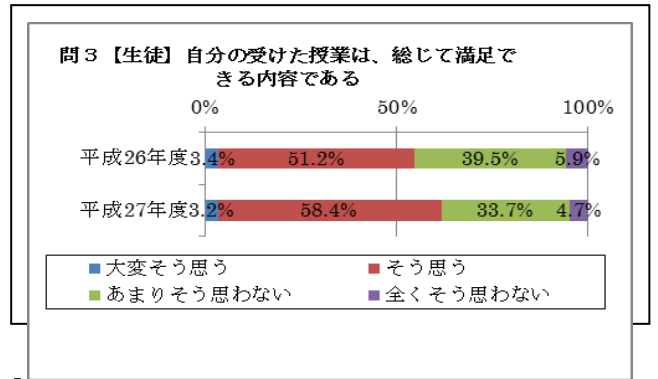




②

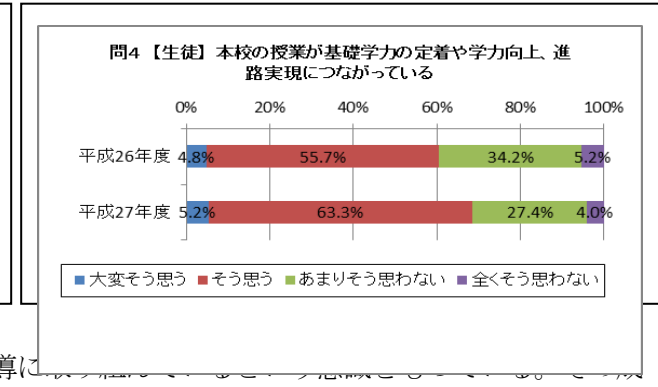
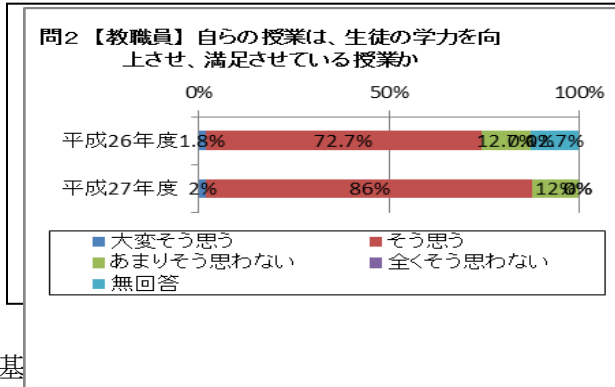
授業に対する生徒の満足度は「そう思う」が増加し、「あまりそう思わない」が減少していることから、総じて授業内容が評価されてきていると考えられる。ただ、授業が進路など将来にどうつながっていくのかという学習の意義をどう捉えるかという点については、実感が薄くなっている。

教職員は、授業内容の充実に取り組むことも重要であり、より一層の研鑽を積み重ねなければならないことは論を待たない。また、一方で、生徒が、将来いずれの進路を選ぶにせよ、高校時代の学力の養成が、これからの大きな糧になっていくことを理解させる努力も続けていく必要がある。



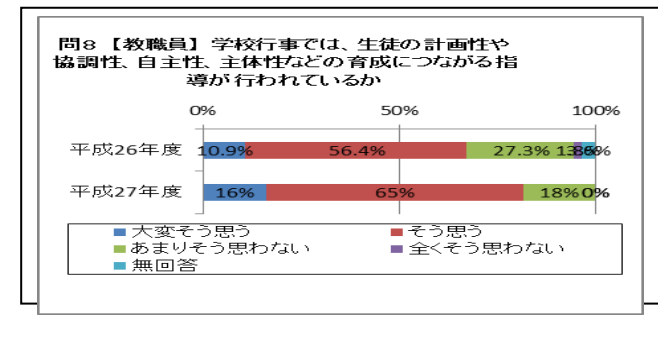
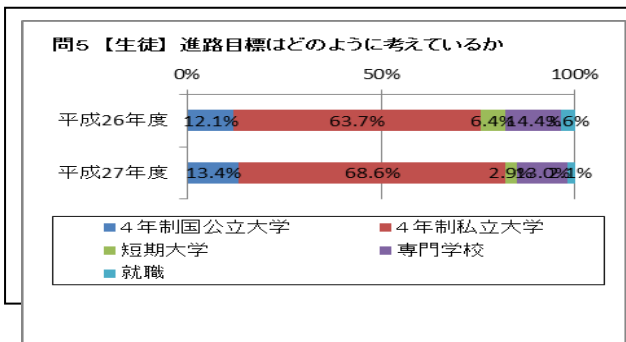
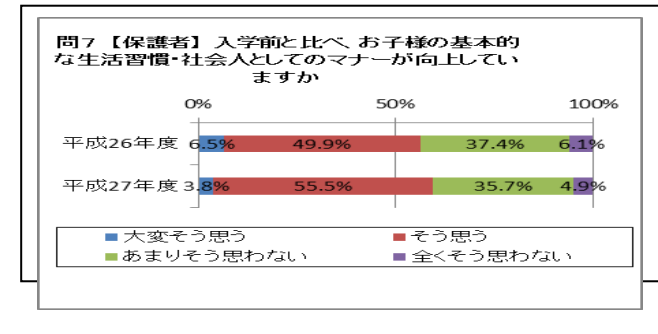
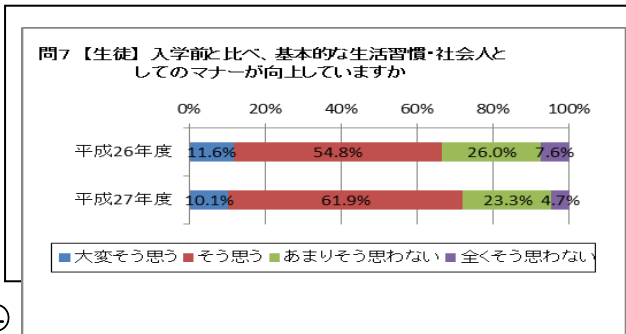
③

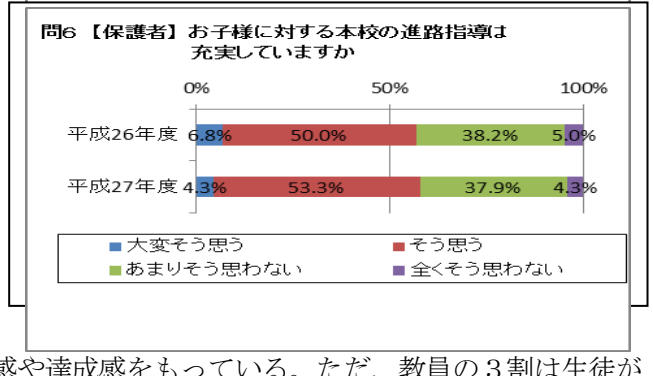
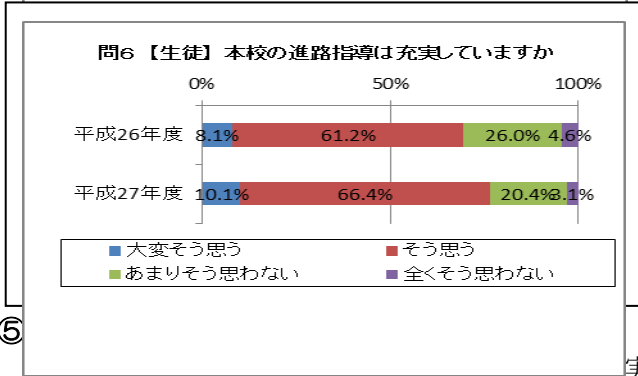
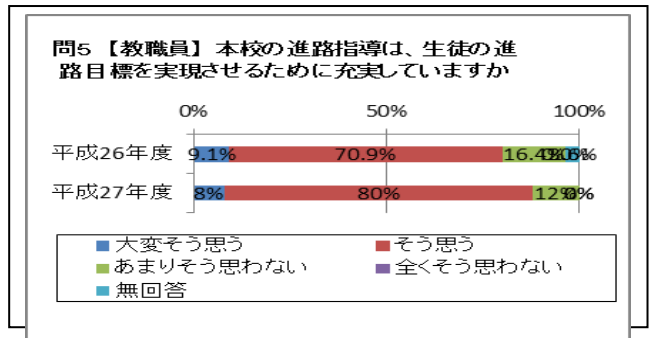
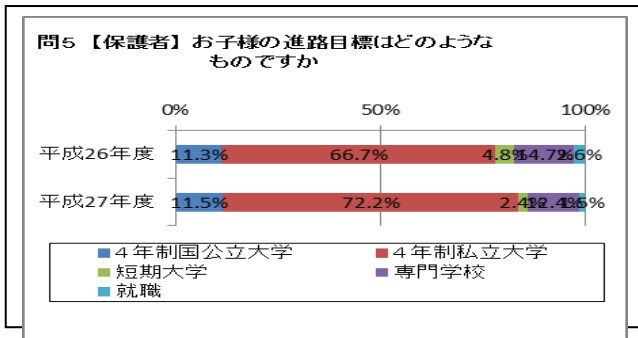
結果として、生徒のなかで基本的な生活習慣、マナーの向上に肯定的にとらえているとの回答が7割という数字に表れている。ただ、一方で、生徒・保護者においてもそれほど向上しているとみていない割合も2～3割ほどいるので、課題意識をもって生活指導の向上に努める必要がある。学校では、挨拶の励行や駐輪指導、遅刻防止指導を行い、その効果は徐々に現れてきているが、まだ教員の指導体制を強化する必要がある。保護者にも課題を明示し、協力態勢を築いていくことも必要である。



④

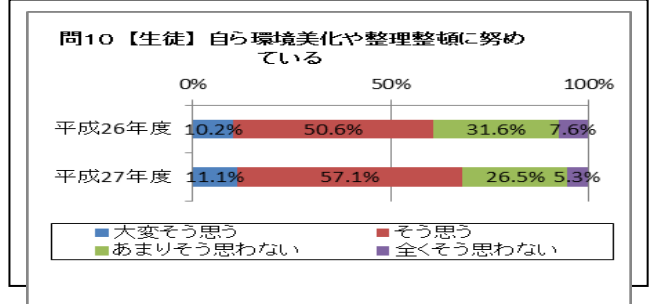
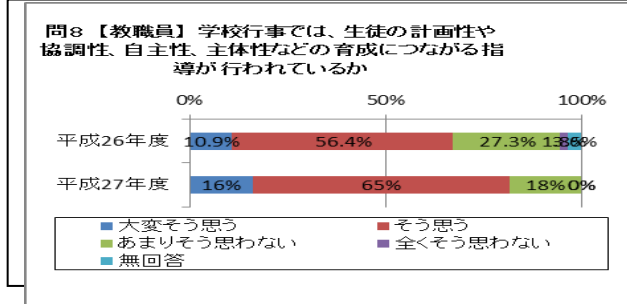
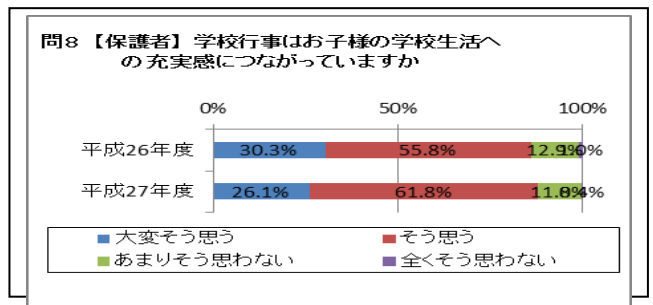
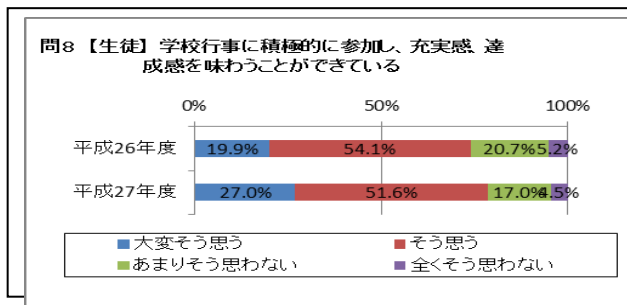
4年制大学進学を希望する生徒が年々増加し、専門学校志望者が減少している。学校は進路指導、情報提供をさらに充実させ、生徒、保護者にわかりやすく伝えるための工夫が必要である。また、生徒自らが早い段階から進路について考える姿勢を学習習慣の定着とともに、さらに育成していかなければいけない。





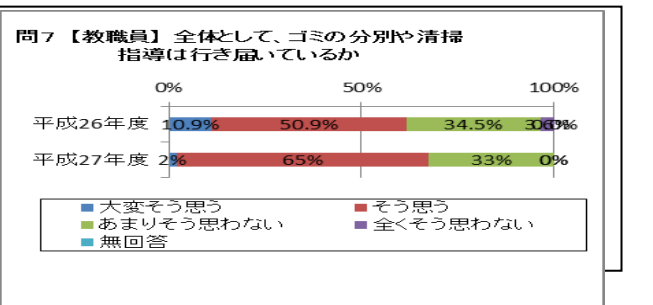
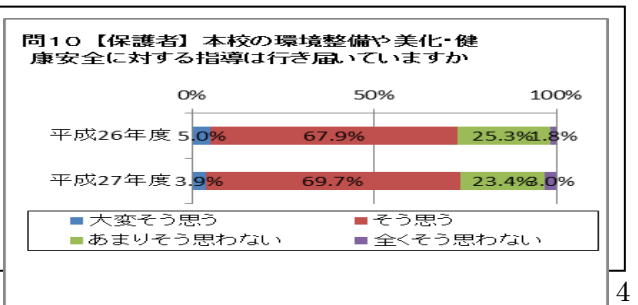
⑤

実感や達成感をもっている。ただ、教員の3割は生徒が学校行事に自主的に主体性をもって取り組んでいるとは評価していない。今後も支援を必要としながらも生徒が主体的に活動していきける場面・環境を整えることが大切である。さらに各行事の内容について、充実を図りながら、より主体的に生徒の力だけで運営できるよう指導していくことが課題である。



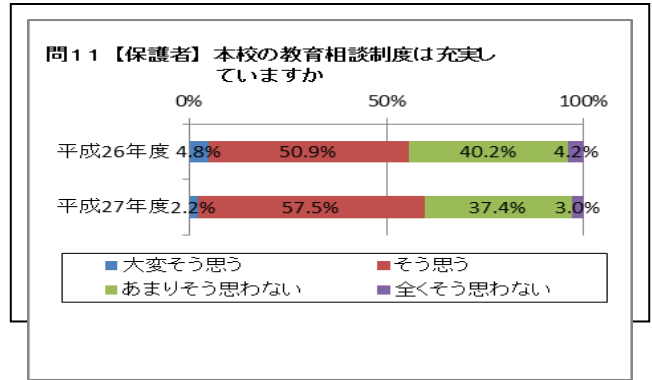
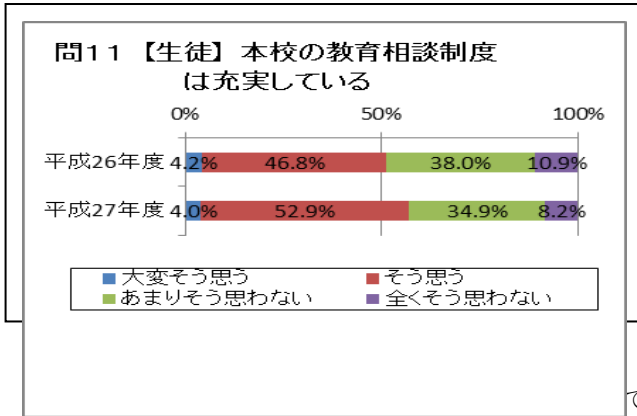
⑥ 環境美化

生徒は清掃、ゴミの分別など心がけて取り組んでいる。ただ、ここ3年間3割前後の生徒で環境・美化について、否定的な見解を示している。特に教員では3割強が環境美化に否定的にとらえているだけに、今後も、不要物の整備などを行い、より校内美化に努めていく必要がある。一方、本校の保護者には、比較的高い評価を得ていることは、行事などで保護者が来校されたときに目に映った印象が良かったのではないかとと思われる。

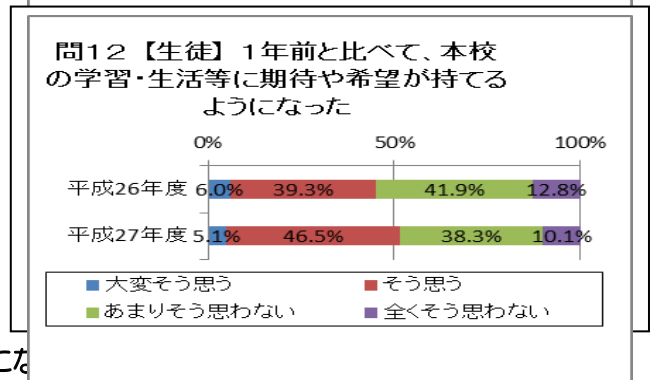
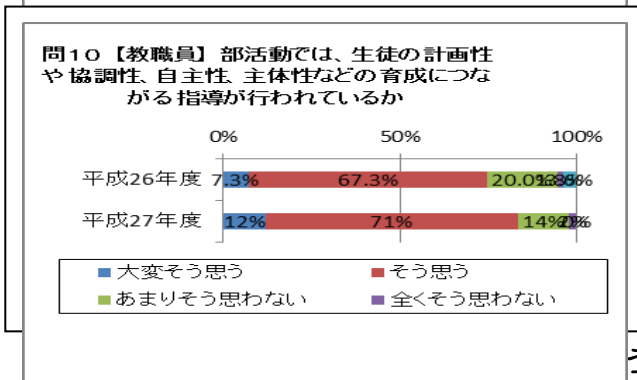
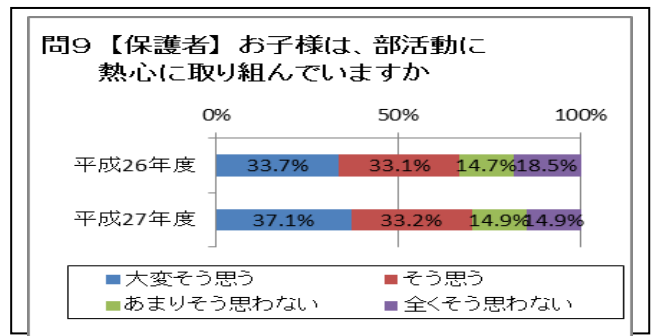
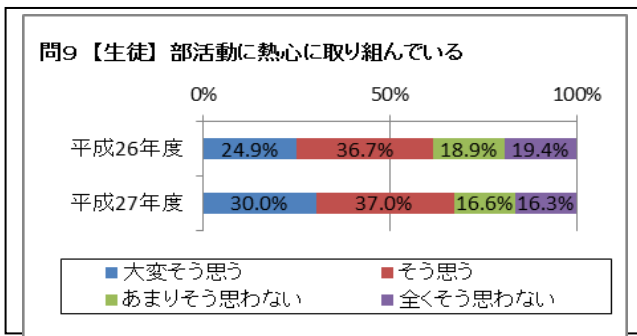


⑦ 教育相談体制

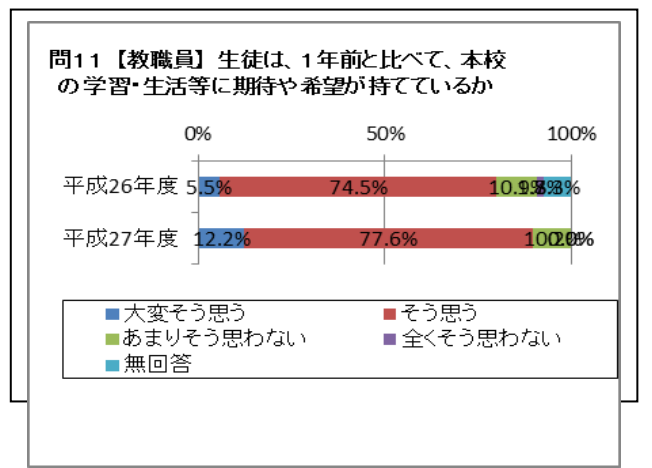
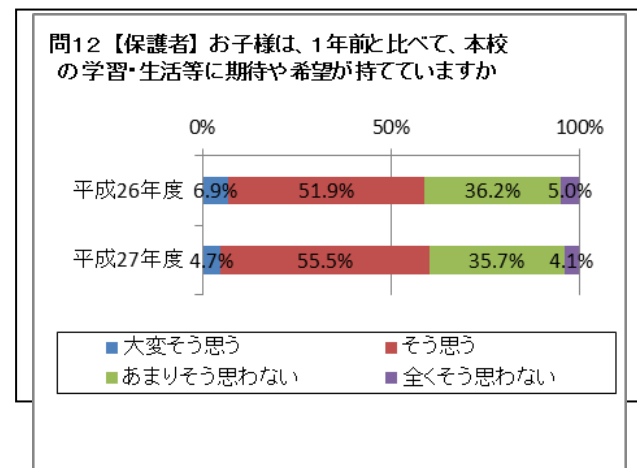
可もなく不可もない数字が出ている。今後も、家庭への周知を図り、スクールカウンセラーの来校日での相談体制及び校内の相談体制を構築していく必要がある。



ている。本校では、平成24年度入学生から1年生部活動全員加入などの取組を行ってきた。生徒は約3分の2で肯定的回答が多く、保護者も7割以上で肯定的にとらえているが、教員の視点では実態として部活動が活発になっているとは感じていないようである。学校全体としての指導体制の充実、予算の充実、部活動指導者の確保、育成などを図っていく必要がある。

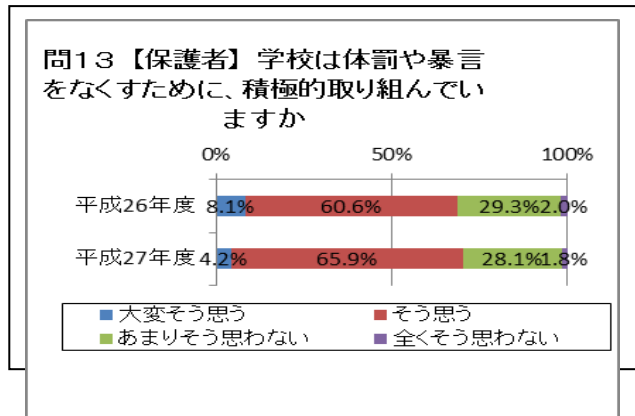
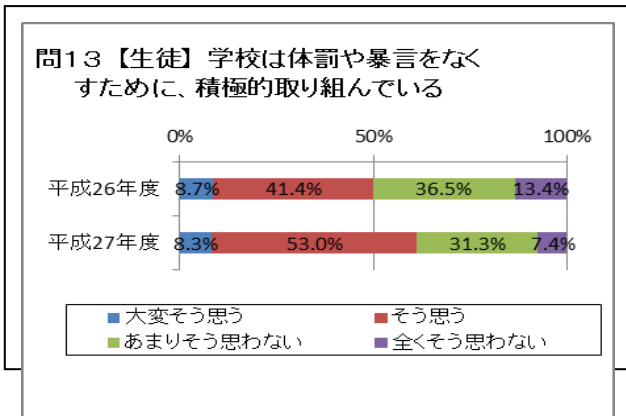


生徒・保護者では肯定的回答と否定的回答が半々という結果になっている状況が続いており気になるところである。教職員は、かなり肯定的にとらえているだけに、否定的な生徒がいる状況を真摯に受け止め、今後も原因分析と対応策を取らなければいけない。



⑩ 体罰・暴言への取組

生徒のなかでは、4割で否定的な意見、保護者では3割が同様な意見と一定数体罰・暴言への取り組みに厳しい目をもっている。見えないいじめ等への気づきや教員・保護者間のきめ細やかな連絡態勢を取り、学校として、体罰・暴言等に関しては、絶対に見過ごさない姿勢を徹底させ、学校としての信頼を高めていく努力を積み重ねていく。また、教員の校内研修等の取組についても改善していく必要がある。

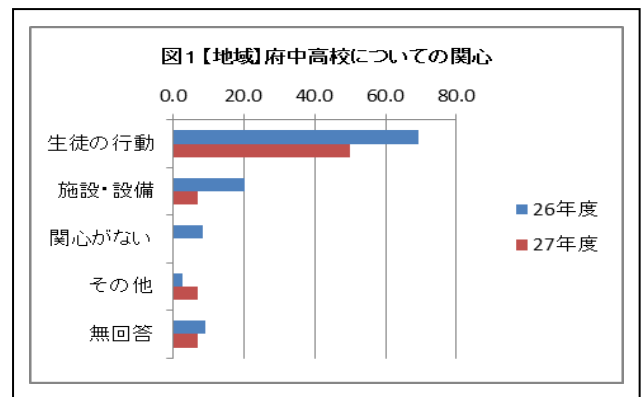


⑪ 地域の方々へのアンケート集計結果及び分析

設問1

府中高等学校について、あなたは、どの部分に関心がありますか？

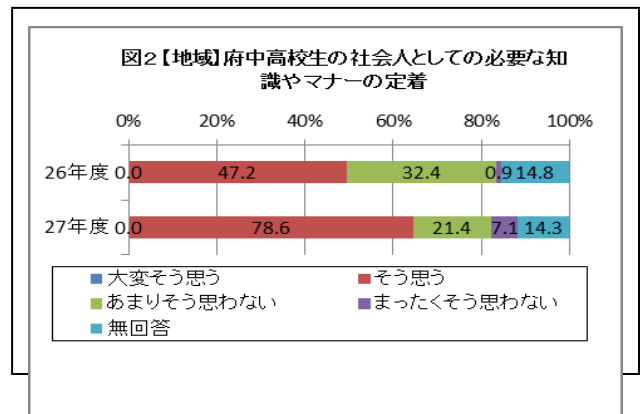
【分析】「学校の教育活動」とお答えいただいた方が最も多く、次に「生徒の行動」となっている。普段から本校の教育活動や生徒の色々な面を見ていただいている状況である。今後も引き続き校内外で認めていただける学校づくりに邁進する。



設問2

府中高校の生徒は、社会人として必要な知識やマナーが身に付いていると思いますか？

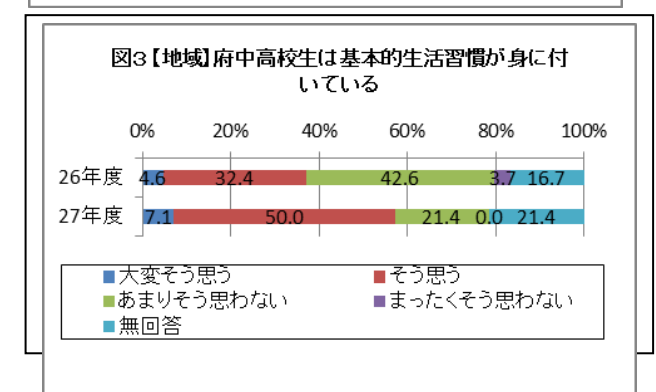
【分析】「肯定的意見」が約70%で、昨年度（48%）より高い数値になった。一方、「否定的意見」が約30%と、昨年度（34%）とそれほど変わっていない。今後も地域の方々に、厳しい目を見ていただくことが本校の発展には必要と考える。これからも継続的に社会の醸成・マナー向上について指導を強化する。



設問3

府中高校の生徒は、基本的な生活習慣が身に付いていると思いますか？

【分析】「肯定的意見」が約60%（昨年度37%）、「否定的意見」が約40%（昨年度34%）でマナーが良くなってきている傾向が伺える。まだ朝の登校時間に遅刻する生徒がいたり、交通ルールが守れなかったりといった部分で、地域の方に認めていただけないのかと思う。今後も身だしなみ等、更なる指導を継続する。



設問4

府中高校の生徒は地域に貢献していると思いますか？

【分析】『九小祭り』への参加、災害時緊急帰宅ステーション等、一定地域住民から評価を得ている。アンケート対象地域が近隣だったせいか、府中市の夏の祭事『よさこい in 府中』の参加について認知されていないこともわかった。広報活動などを通じて地域体験活動（奉仕）へのPRが必要である。さらに、地域との連携も継続する。

設問5（複数回答可）

本校では開かれた学校づくりを目指し、地域、保護者との連携を深める取組を進めています。どのような教育活動をご存知ですか。

【分析】「文化祭」、「よさこい in 府中」、「宿泊防災訓練」、「公開講座・天体観測会」がよく知られるようになった。今年度も地域連携型防災訓練を企画し、一定の理解協力を図れた。今後も災害に備える体制を取っていく。

本校の教育活動をご理解いただくためにも、早期から地域への情報発信を行い、学校の教育活動について広くお伝えして、地域の方々とともに教育活動を実践する。

設問6（複数回答可）

府中高校の学校行事のうちあなたが参加したいと思う行事はどれですか。

【分析】多くの方が、「文化祭」、「公開講座」、「天体観測会」に参加したいと回答をしていた。今年度も天体観測会では、地学部が協力し、活躍してくれた。今後も地域の方々への還元を図っていく。

設問7（複数回答可）

府中高校は体罰や暴言をなくすために、積極的に取り組んでいると思いますか。

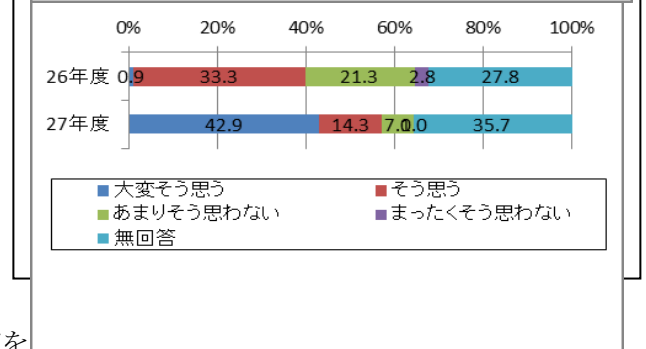
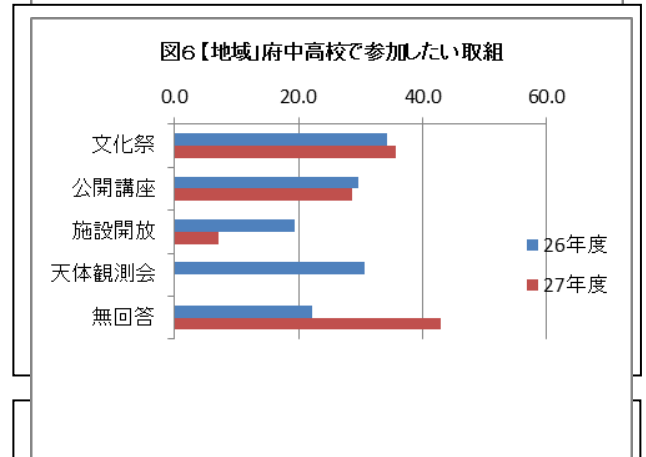
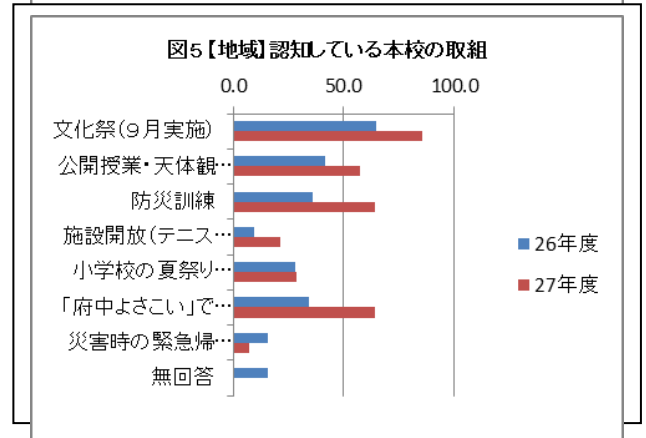
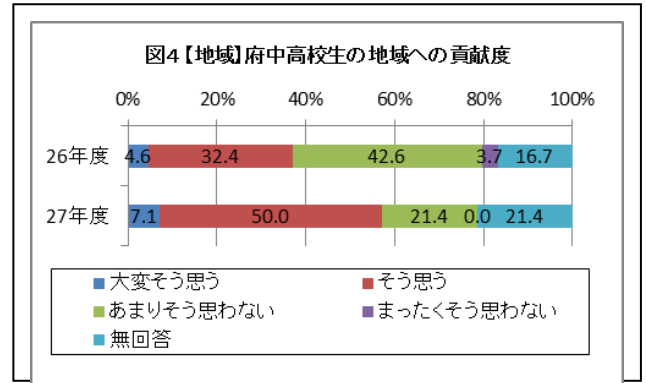
【分析】「肯定的意見」が約67%、「否定的意見」が約33%と「肯定的意見」が高くなってはいるが、まだまだ取組が浸透しているという状況ではないと感じている。

今後も地域の方々に、学校の取組を発信していく体制の構築に努力する。

設問8

府中高校についてのあなたの印象やご提言、ご意見などを

【分析】近年、本校の生徒はマナーが良くなり、行儀もよくなったという声が多く伺えた。学校の諸々の取り組みの成果だという。一方で、おとなしすぎて、活気や元気が足りないとの声もあった。個性を生かし、商店街のイベントや市の行事にも参加させて、広い視野をもってほしいという要望も聞いた。本校ホームページでも学校通信等を掲載しているので、見てもらえるような工夫をしていく。



4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

本年度は、重点支援校としての取組みではなく、今までの教育活動の成果を継続し実践した。また、協議委員の意見を学校として受け止め改善出来るところは改善する取組を行った。その結果、継続性が成果を表し、協議会の委員からも課題はまだあるものの教育活動の成果は着々と上がって来ているとの評価を得ることができた。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・家庭学習の時間を増やし、学力を定着させる取組をおこなって来た結果、微増ではあるが家庭時間の増加が見られたことは成果につながった。しかし、ゼロ時間の生徒もまだ1割以上存在するので、まだ、十分とは言えない。
- ・進路指導については、増加傾向にある4年制大学への進路希望者の進路実現に向けて、進路指導部を中心とした、進路指導体制の強化及び充実をさらに進め、生徒が期待する学力向上に向けて教員が努力していく必要がある。
- ・基本的な生活習慣については、校内外からの評価は上がってきている。しかし、今後も生活指導（頭髪の染色、化粧、アルバイトの禁止）の取組を継続して指導していかないと、落ち着いた雰囲気の中で、学校生活を送れる環境を維持することは難しくなる。
- ・ホームページの更新や充実については、外部の方の期待の高いところであり組織的に取り組む必要がある。また、家庭への教育活動等の情報提供を密にする方法を構築していく必要がある。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

(1) 学校経営

- ・各教科主任を中心とした教科内研修を充実させ、進路に結び付く学力向上を図る。
- ・若手教員の育成を図るため、OJTを推進し組織的に取組み、生徒及び保護者からの期待に応える。
- ・全校体制で生徒の募集活動を実施するために、総務部が中心となって企画・運営を行う。
- ・企画調整会議や職員会議等を通して、全教職員が学校経営について共通理解をもち教育活動を推進する。

ア「平成27年度施設開放事業」

テニスコート（4面）年間21日のべ706名の利用者

グラウンド 年間1日のべ20名の利用者

イ「平成27年度公開講座」

講座名

「書道」 7月25・26日、8月1・2日（全4回）

「天体観望会」 7月19日、12月19日（全2回）

講師 本校教諭

「英会話」 10月3・17・31日、11月7日（全4回）

講師 大学講師（本校元教員）

(2) 学習活動

- ・学力スタンダードの取組を充実発展させ、組織的な学習指導として構築する。
- ・家庭学習の習慣を身に付けさせるために、各教員が常に授業改善に取り組み意識の定着を図る。
- ・習熟度別少人数による授業を通じて、学力向上を図る。

(3) 特別活動

- ・1学年の部活動全員加入を継続し、部活動加入率を向上させ、部活動の活性化を図る。
- ・生徒の期待に応えるために、指導体制を整える。そのために、外部指導員の効果的活用や中学校との部活動交流、中学生対象の活動見学会等を実施する。
- ・学校行事（文化祭、体育祭、合唱祭等）では、連帯意識を深め、社会的自立や社会貢献を念頭に置いた体験活動となるよう、計画的に指導し生徒が自主的、主体的に企画運営できるよう支援する。
- ・学校行事については、アンケート結果を分析するなど検討を行い、生徒、保護者、地域の期待に応える行事に発展させる。
- ・生徒会活動を充実させるために各委員会活動を指導し、学校生活を充実させる。

(4) 生活指導

- ・生徒が基本的な生活習慣を確立し向上できるよう、組織的に指導を行う。
- ・日常生活において頭髪の染色や化粧、アルバイトの禁止、高校生が学校生活を送るにふさわしい服装・態度等のマナーへの指導を集会や定期考査時を活用し指導する。
- ・授業規律の徹底について全教員が共通認識のもと取り組む。

(5) 進路指導

- ・進路指導部が3年間の進路計画を策定し、進路行事や模擬試験を企画実施する。
- ・進路希望調査や模擬試験、そして計画的な生徒・保護者との面談により、生徒の進路希望を把握し、データを蓄積・管理し、学校全体での定期的なケース会議を実施し、より高い目標に向けた進路実現を図る。
- ・進路指導室の整理・整頓を徹底し、収集した資料を生徒の個別指導に十分活用できる環境を整える。

(6) 健康・安全

- ・特別支援教育の充実を目指し、スクールカウンセラーを活用した教育相談体制を整え、安心して学校生活を送ることができる環境整備を行う。
- ・保健委員会活動の活性化により、生徒の健康づくりを推進する。
- ・交通安全教室の実施、届出とステッカー貼付による自転車管理、定期的な駐輪指導を実施する。
- ・セーフティ教室における薬物乱用防止指導の充実を図る。

6 「学校がよくなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 8人

(2) 学校がよくなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少 そう思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	そう 思わない	わからない	無回答
3	2					3

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 職員会議 11回 延0人 企画調整会議 33回 延0人

- ・学校行事や個別に学校に来校した際に、助言等をいただき連携を深めた。

8 その他

- ・保護者のアンケート回収率を高めるために保護者会等の活用を図った。
- ・地域へのアンケートの方法について、今後、検討をしていかなければならない。